



【今こそ祈る時です！】

聖書本文：ルカの福音書22章39-46節・今週の暗唱聖句：ペテロの手紙第一 4章7節

説教者：鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。花粉もひどくなり、季節の変わり目のこの時期、教会の皆さんのご健康をお祈り申し上げます。

< 本文 >

人々は何か問題が生じたらその問題に対してそれぞれ自分なりに反応します。ところが**全然助けにはならない三つの反応**があります。一つは**責任を転嫁する事**です。私がこんな風になってしまったのはほかの人の所為（せい）だと考え込んでほかの人を非難し攻撃することです。二つは**問題を見逃して忘れようとする事**です。三つはその**問題から逃げる事**です。これらは一つも役に立ちません。それにもかかわらず、多くの人々はこのような方法を受け取ります。私たちが生活しながらどうしてもできない試練と苦しみにあったときにこのような問題に対応する一番適切な反応は一つしかありません。その問題に**ぶつかる事、直面することだ**と思います。

しかしどうして私たちはぶつかるのをいやがるのでしょうか。ぶつかるというのは苦しいからです。神様はクリスチャンたちにその問題を逃げずに、見逃さずに、問題の責任を転嫁せずに、能動的に、肯定的に問題と対決し、克服する一番効果的な方法の一つ授けてくださいました。なんでしょうか。それは**まさに祈る事**です。

今日の聖書本文に出ているイエスキリストを考えて見ましょう。イエス様の前には十字架の死が近づいていました。明日にはあの残酷な十字架にかかる事を知っておられました。近づいて来ている十字架、この苦しみの十字架の前でイエス様はほかの人たちを非難されませんでした。弟子たちさえも、彼を裏切ったあのユダさえも責めませんでした。それにイエス様はなんの悩みもないふりをする演技もされませんでした。あの苦しみの十字架をイエス様は真っ直ぐに眺めました。その十字架という苦しみをいただいたままゲッセマネの園でイエス様はひざまずいて祈ることによって直面され、祈りをもって十字架を覆うようになり、祈りによってイエス様は勝利を得たのです。

しかし、その夜イエスの愛する弟子たちはどこにいましたか。

彼らもきつとかすかに近づいている試練を予想していたでしょう。それにもかかわらず弟子たちの反応はどうか。本文45節をみてみましょう“**イエスは祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた。**”もちろん弟子たちの心にも悲しみや心配や不安があったでしょうが、それにもかかわらず、彼らはこれから来ようとしている試練の前で祈ったわけではなく、その悲しみと心配をいただいたまま寝ていたのです。“**もう今問題は寝てしまて忘れよう**”とする“**逃避**”の一種だと言えるのです。

その時、イエス様は近づいて来ている十字架の死の前、そしてイエス様の前でイエスを否定する、さらにはイエス様をのろいながら逃げ出す弟子たちを予見しながら、いま緊急な状況の中でも寝ている弟子たちに“**なぜ、眠っているのか。**”と言われます。

今日私たちにも祈り課題はどれだけ多いのかわかりません。それにもかかわらず、深い眠り、無感覚、無関心の眠りの中で生きている私たちにもイエス様は“**なぜ、祈れずに眠っているのか。**”とおっしゃっているのでしょうか。

< 1. 祈らなければならない二つ理由 >

今日の本文にはなぜ私たちが目覚めて祈らなければいけないのかに対する明確な教訓を提示してくれています。みなさん。なぜ、起きて祈らなければいけないのでしょうか。本文はすくなくとも二つの理由を明らかに示してくれます。

一つの理由は誘惑に陥らないためです。本文の40節をみてください。“いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、誘惑におちいらないように祈っていなさい”この御言葉は46節にも繰り返されます“なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていなさい。”このように2回とも強調されています。ここでの誘惑というのは教育の意味でのテストではなく破壊的な誘惑を意味します。サタンの攻撃、悪霊たちからの攻撃、つまり霊的な戦いを意味します。

イエス様は彼らをつまずかせるためにサタンが近づいてきているのにもかかわらず、眠っている弟子たちの姿を見てもどかしさを感じたのです。イエス様はルカの福音書22：31に一番の弟子だったペテロにあらかじめ、警告してくださいました“シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。”これは言い換えると“シモンペテロ。サタンがお前をつまずかせるために、お前を破壊するためにねらっているんだ。ですから、私はお前のために、お前の信仰が陥らないように祈っている。”

そして34節にイエス様ははっきりと教えてくださいました“ペテロ、あなたに言いますが、今日鶏（にはとり）が鳴（な）くまでに、あなたは三度、私を知らないと言います。”これはペテロにかぎらずほかのすべての弟子たちにも似た警告が伝えられました。マタイの福音書26：31、マルコの福音書14：27に“あなたがたはみなつまずきます。”自分たちをつぶそうとする誘惑が近づいてきているのにもかかわらず、弟子たちはこの警告を聞いてからも眠っていたのです。しかしみなさん。これらの姿は確かに私たちの姿ではないでしょうか。今日を生きる人であるならば、誰でも自分なりの苦しみやつまずきの時があると思います。

どなたかヤコブの手紙1：2を見てみてくださいませんか。“私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは”から始まっていますね。ヤコブは祈りの使徒でした。祈りの奥義と力をよく知っていた彼を通して神様はこのヤコブ書のはじめに“さまざまな試練に会うとき”とおっしゃいました。ここで‘さまざま’の意味はいろんな色、つまり、**いろんな種類の試練に会うという意味**です。

愛するみなさん。私たちは確かに人生の中いろんな形の試練に会います。家庭の中での試練、職場での、人間関係において、金銭的に、性的な誘惑など。みなさんはこのような試練に対する準備はいつもできているでしょうか。それにいつもどんな誘惑が自分に来ても負けない準備ができていますか。

イエスの一番弟子であったペテロさえも失敗しました。もちろんイエス様に許されましたが後になってペテロはこのような言葉を私たちに残してくれました。新約聖書の中ペテロの手紙第一4章7節を読んで見ると、“万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。”

そして第一ペテロの手紙4章12節では“愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく”と教えました。彼は燃えさかる火の試練を味わいました。彼は同じようにクリスチャンにも人生の中火の試練はいつもありえるという事実を示してくれているのです。

みなさん。私たちもいつ火のような試練に会うかわかりませんが、この試練を乗り越える準備はできているでしょうか。イエス様は主の祈りを教えながら“私たちが試みに会わせないで、悪からお救いください。”と祈るようにおっしゃっています。苦しみや、試みの多いこの世で、自分や家族や教会を守るためにどれだけ祈っているのでしょうか。聖書によると試みに会うのを不思議に思わないでください。さまざまな試練と試みの中私たちは祈りを通してより強く神様に近づくことによって、試練に忍べ、ついにつらぬいて、打ち勝つことができるようになります。

ですから、私たちみなはさらに祈りに専念しなければなりません。なぜならば、試みに会ってもつまずかないためなのです。試練に会うのを驚き怪しまないようにしましょう。みんなもっと祈りをたもって生活の中大胆にいきましょう。

目覚めて祈らなければならないもう一つの理由は神様の御心がかなえられるためです。

私たちが試みに会わないというのは消極的祝福だと言えます。しかし、祈りには能動的で積極的な祝福もあります。祈ることによって試みに会わないのみならず、神様の御心がかなえられるということです。ルカの福音書22:42にイエス様の偉大な祈り、地上最高の祈りだと言われているこの祈りをもう一度見てみましょう“父よ。みこころならば、この杯を私から取りのけてください。しかし、私の願いではなく、みこころのとおりにしてください。”私たちはいつも神様のみこころのみを追い求めるといいながら自分の考え、計画の罫（かこ）いを越（こ）すのがいかにむずかしいのかわかりません。神様の御心を云々（うんねん）しながら、自分の立てた思いのまま生きようとする自分自身を見ませんか。

エゼキエル書36章36-37節をみてください。

36節に神様はシオンの回復を約束されます。バビロンの捕虜（ほりよ）に連れられて行ったイスラエルの民をシオンの地に戻（もど）し、荒（あ）れ果（は）てていた地を回復させると約束されました。そして37節にはどんなに書かれていますか“わたしはイスラエルの家の願いを聞き入れて、つぎのことをしよう。”シオンは回復されると約束された神様はそれでも御自分の民の祈りを通してなさることを示しておられます。ここでわたしたちは祈りの大切さをもう一度見出すことができます“祈りというのは神様の約束を成就させる通路であるということです。”

神様は私とみなさんのためにも素晴らしいご計画をもっておられます。一人一人、家庭、共同体、教会、民族のために素晴らしい計画をもっておられるのにどうして神の御心がかなえられないのでしょうか。それは祈らないためです。

私たちが祈り始める時、神様の約束は成就されると信じます。祈りというのは試みを克服するだけではなく、神の御心を成す方法であることをわすれないでください。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

イエスキリストを信じた後、神様から頂ける一番尊いプレゼント、それが祈りなのです。

祈りは天国のカギであり、祝福のカギであることをわすれないで下さい。

イエス様は弟子ペテロに“わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。”（マタイの福音書16:19）

イエス様がペテロに下さった天国のかぎが今は私たちの手にも置かれています。イエス様の御名によって祈ればかならず主が働いて下さり、答えて下さると約束されました。

“またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるのです。”（ヨハネの福音書14:13）

イエスキリストを信じて救われたことが最高の祝福であるならば、地上で生きているうちにイエスキリストの御名によって祈れること！これが信じる者たちに日々御国を経験し、御心通りに生き、交われる最高の祝福であることをぜひ忘れないで下さい。

しかし、イエス様の弟子たちは眠っていました。みなさんと私も最近眠っていたのではないかと振り返ってみましょう。最近祈らなかつたため神様の素晴らしい答えも経験できない信仰の生活をすごしているのではありませんか。

< 2. どうやって祈るべきなのか。 >

そうすると私たちはどうやって祈るべきでしょうか。きょうの本文には一番素晴らしいイエスの祈りの見本が出ています“わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。”という表現が本文には一回しか出てこないですが同じ内容のマタイの福音書26:39以下、特に44節をみるとイエスさまは同じゆだねる祈りを三度繰り返したと書かれています。“私の願いではなく、あなたのみこころのように、なさってください。”

イエス様の祈られている姿は必死そのものです。まず神様であるイエスキリストなのにその方はひざまずいて祈られました（41節）。当時ユダヤ人だちは立ててささげる祈りをしましたが、本当に切迫の時は彼らはひざまずいて祈ります。そしてどうやって祈られますか。44節をみてください。するどいルカはイエス様の祈られている姿を

このように現しました“イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。”イエス様の祈りは必死そのものでした。なぜですか。夜が明けるとあの苦しみの十字架を負わなければいけなかったからです。私はその時イエス様はさげびながら祈られたと思います。そうでなければ、イエスの祈られている内容“私の願いではなく、あなたのみこころのとおりにしてください。”という祈りをどうやって聞いて記録したでしょうか。眠っていた弟子たちも聞こえるほどイエス様は切に祈られたのではないかと思います。

“わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよ。”(エレミヤ書 33章 3節)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん。

今皆さんの祈りの生活はどうでしょうか。どんな状態なのかだれより自分自身が一番よく知っていると思います。自分の状態が危機だと、切迫だと感じていますか。自分自身に本当に切迫な悩み事があるならどうやって祈るべきでしょうか。イエス様は神様です。祈る必要がない唯一な方があれば、それはイエス様でした。しかし彼は祈られました。普通に祈られたのではありません。イスラエルのあけがた、特に山の上での気温はけっしてあつくはなかったことを覚えてください。やや冷たい中顔から流れている汗が血のしずくのように祈られました。

神様の御業のため、自分自身と弟子たちのためにひざまずいて必死に祈られたイエス様のなまなましい見本。この確かな模範にもかかわらず、皆さんと私はいま眠っているのではないのでしょうか“なぜ、眠っているのか。起きて目を覚まして祈りなさい！”と主は仰せられます。

今日私たちは絶え間（たえま）がない問題の中で生きています。今の時期こそ、疲れている時期こそ、祈れない時期こそ、忙しい時期こそ目覚めて祈る時です。心を慎んで祈る時です。自分自身がもっとイエスのようにへりくだり、自分自身の痛みと、苦しみのため、子供たちと家庭、職場、教会、教会の家族のためもっと私たちはいま切に祈る時ではないでしょうか。

イエス様がそのぐらい祈られたのであれば、弱い私たちはどれだけ切に祈るべきでしょうか。苦しみや試練を恐れないで、今の時期こそもっと祈れる者になるように祈りつつ、祈りをもって勝利を得る皆さんとわたしとなりますように切にお祈り申し上げます。アーメン。

“わたしが、あなた神、主である。わたしはあなたをエジプトの地から連れ上った。あなたの口を大きくあけよ。わたしがそれを満たそう。(詩篇 81:10)”

この一週間神様がみな一人一人の上に祈れるように力をづけてくださるよう、また日々日々祈りを通して冷めた自分の心が神様の前で、あらためて燃やされますように切に祈り祝福します。アーメン！！

